

NEWS

Vol.25

<http://www.jmdp.or.jp/>
<http://www.donorsnet.jp/>

発行 平成16年(2004)12月13日
 財団法人骨髓移植推進財団
 発行責任者 高久 史磨(理事長)
 編集責任者 堀之内 敬(事務局長)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F
 Tel 03-5280-8111 / Fax 03-5280-0101

日本骨髓
バンクの
現状
(2004年9月末現在)

登録者数
19万6733人

移植数
5,866件

CONTENTS

- 1 ドナー登録者20万人、移植6000例到達インタビュー 神山清子さん
- 2 すべての患者さんに骨髓提供できる日を目指して
目標30万人へ、新たなスタート
- 4 病気とたたかう誰かのためにあなたができること、できないこと
提供のためのドナーの健康基準
- 8 骨髓移植と輸血/献血のお願い
- 9 日本骨髓バンクの現状
- 10 トピックス
骨髓バンク推進月間/骨髓バンク推進全国大会 ほか
- 12 お知らせ
アンケートにご協力ください
募金のお礼とお願い

平成16年(2004)11月、ドナー登録者20万人 移植6000例に到達しました。

「ドナー登録者数30万人」を目標に、
すべての患者さんに骨髓提供できるよう、
これからも全力で取り組んでまいります。

INTERVIEW
インタビュー

日本骨髓バンクが設立された当初、ドナー登録目標は10万人でした。倍の20万人に到達し、「次」が見えてきました。バンク設立運動に携わった神山清子さんは、映画『火火』の公開を機に、「30万人」を願っています。



神山清子さん
陶芸家(滋賀県信楽町在住)
「滋賀骨髓献血の和を広げる会」代表者

骨髓バンク普及に「火の勢い」

神山さん親子を描いた映画「火火」

この作品はひとりの女性として、母として、古信楽の再現に没頭する陶芸家としての神山清子さんの生き方を、燃え盛る窯の「炎」の激しさになぞらえて描きだします。撮影は神山さんの工房「寸越窯」で行われ、神山さん自らが作陶シーンを指導、実際に穴窯に火を入れたとあって、その迫力には圧倒されます。また、骨髓移植や闘病の様子などは可能な限り事実面に忠実な再現が試みられ、観る人の理解に訴えています。

同じく骨髓移植を扱った映画『半落ち』『世界の中心で、愛をさけぶ』『ロード88』などの公開が大きな反響を呼び、ドナー登録者数の伸びに結びつきました。その余韻がさめないうちの来春公開とあって、引き続き登録者の増加に一役買ってくれることは間違いのないでしょう。



映画情報は
12ページへ

映画「火火」のワンシーン

神山さんの長男・賢一さんが慢性骨髄性白血病になったのは平成2年(1990)のことでした。「骨髓バンクはまだ発足していませんでしたから、ワラにもすがる思いでドナー登録を呼びかけました」
欧米でスタートしていた骨髓バンクを「ぜひ日本にも」という運動はすで

に始まっていましたが、患者さん自らが先頭に立つことは極めて異例のことでした。テレビカメラの前でバンクの必要性を訴えました。
「治りたい。治って作陶を続けたい」
29歳になっていた賢一さんは、母の背中を見詰めて育つうち、母と同じ道を歩み始めていたのです。
「設立運動と共に、ほかの患者さんと一緒に提供者も募りました。けれど、賢一には適合者が見つかりませんでした。やむを得ず、1座不致の叔母からの提供で移植を受けたのです」
平成3年のことでした。いったんは快復したものの、賢一さんは翌年4月に再発し、31歳で亡くなりました。
「陶芸家としての才能を喪失した思いが今も強烈にあります。限らない可能性を持っているのが『いのち』です。私のような『悲しむ母』を出さないためにも、引き続き骨髓バンクには、より一層の発展を期待します」
(こつやま・きよこ)

ドナー登録者20万人、移植6000例到達

すべての患者さんに骨髄提供できる日を目指して

目標30万人へ、新たなスタート

平成4年（1992）1月6日のドナー登録受け付け開始から12年11カ月を経た今年11月25日

ドナー登録者現在数は20万人（累計25万人）に達しました。

これまでにドナー登録していただいた方々の善意と、関係者の皆さまのご尽力に心から感謝申し上げます。

20万人に到達した今年の新規ドナー登録者数は10月末時点で2万4608人と過去の年間登録者数を更新しています。また、11月17日、骨髄バンクを介した骨髄移植例数は6000例に到達しました。こちらの年間例数も、今年は昨年より60例ほど多い790例となる見通しです。

しかし、それでも昨年登録しながら移植を受けられていない国内の患者さんは約4割にのぼります。一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供するには、目標ドナー登録者数30万人の達成を一日も早く実現しなければなりません。

ドナー登録者累計数



日 本の骨髄バンクの登録受け付けは、血液センターや献血ルーム、一部の保健所で行われ、その数は年々増えています。また、献血と併行して行われる登録受け付けとボランティアの皆さまや地方自治体によるドナー登録会も年間1300回も開催されるようになってきました。しかし、土・日曜に受け付けている窓口が少ないことや、原則として予約が必要であることなど、登録希望者からドナー登録がもっと容易にできるようなという要望が寄せられています。

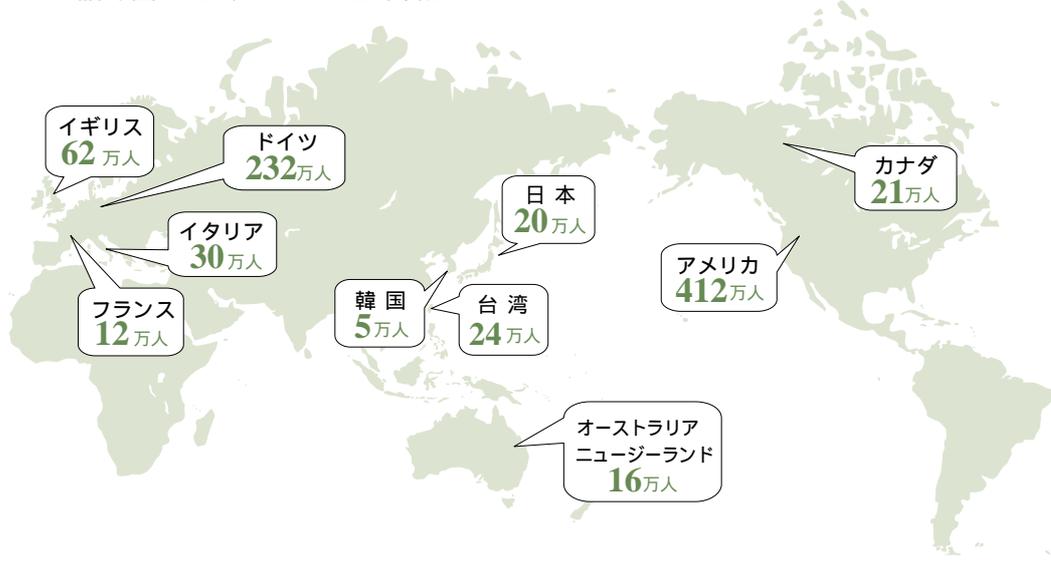
現在、国（厚生労働省）の造血幹細胞移植委員会ではドナー登録者・骨髄提供者のそれぞれの条件を見直すとともに、ドナー登録者拡大のための施策についても議論がなされています。当財団としても国、地方自治体、日

骨 髄バンク発足当初、目標のドナー登録者数は10万人でした。HLA型の血清学的な適合率から「10万人のドナープールで患者さんの9割にドナーが見つかる」と試算されたことによるものです。

その後、移植成績の向上のためにはDNAレベルでの適合が必要とされ、「ドナー登録者数は30万人を目標とする」ことが国の方針となりました。

20万人に到達した現在、すでに適合検索時の適合率、すなわち血清レベルでは8割を超えるまでになりましたが、確認検査での適合率（DNA適合レベル）はいまだに7割程度にとどまっています。

諸外国・地域のドナー登録者数



都道府県別のドナー登録・患者登録状況 (平成16年9月末現在)

都道府県	20～49歳人口 1	ドナー登録目標人数 2	ドナー登録者数	目標達成率 3	提供者数 4	患者登録数	移植患者数 4
	(千人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(人)
北海道	2,247	13,073	12,896	98.65	372	71	302
青森	556	3,235	1,077	33.30	23	15	20
岩手	516	3,002	1,872	62.36	54	14	36
宮城	980	5,701	3,952	69.32	56	8	31
秋田	415	2,414	2,143	88.76	91	24	62
山形	445	2,589	1,730	66.82	38	11	29
福島	796	4,631	5,051	109.07	84	15	22
茨城	1,189	6,917	3,713	53.68	105	41	109
栃木	804	4,678	2,530	54.09	70	30	75
群馬	794	4,619	2,011	43.53	65	23	112
埼玉	2,811	16,354	6,654	40.69	234	84	179
千葉	2,394	13,928	5,257	37.74	244	71	221
東京	6,138	35,710	29,762	83.34	632	189	986
神奈川	3,633	21,136	9,545	45.16	377	79	402
新潟	910	5,294	6,192	116.96	108	33	95
富山	412	2,397	2,349	98.00	34	9	4
石川	460	2,676	2,427	90.69	81	30	74
福井	310	1,804	1,483	82.23	66	16	64
山梨	343	1,996	1,263	63.29	78	21	78
長野	823	4,788	2,714	56.68	43	5	12
岐阜	797	4,637	2,628	56.68	111	24	0
静岡	1,490	8,669	4,922	56.78	168	48	96
愛知	3,038	17,674	11,554	65.37	450	101	685
三重	708	4,119	2,911	70.67	92	29	60
滋賀	544	3,165	1,710	54.03	77	18	31
京都	1,076	6,260	4,859	77.62	162	38	152
大阪	3,811	22,172	10,672	48.13	359	105	516
兵庫	2,183	12,700	6,878	54.16	201	55	240
奈良	538	3,130	1,681	53.71	54	24	45
和歌山	382	2,222	1,250	56.25	35	11	4
鳥取	221	1,286	1,238	96.29	42	6	33
島根	256	1,489	1,650	110.79	36	19	17
岡山	728	4,235	4,116	97.18	135	24	126
広島	1,123	6,533	4,226	64.68	187	35	121
山口	531	3,089	2,241	72.54	67	16	32
徳島	299	1,740	950	54.61	28	10	16
香川	378	2,199	1,208	54.93	38	18	12
愛媛	543	3,159	1,857	58.78	54	14	100
高知	285	1,658	968	58.38	35	16	2
福岡	2,039	11,862	7,802	65.77	235	77	371
佐賀	321	1,868	1,588	85.03	30	8	3
長崎	551	3,206	1,694	52.85	38	12	50
熊本	686	3,991	1,873	46.93	51	14	44
大分	438	2,548	1,451	56.94	53	12	35
宮崎	424	2,467	1,295	52.50	31	14	16
鹿児島	640	3,723	2,225	59.76	59	20	22
沖縄	559	3,252	6,665	204.94	57	13	3
全国	51,566	300,000	196,733	65.58	5,740	1,570	5,745

- 1: 20～49歳人口は、平成12年国勢調査昼間人口比率の数値をもとに算出したもの
- 2: ドナー登録目標人数は、目標30万人を都道府県別20～49歳人口割りで計算したもの
- 3: 平成16年9月末現在のドナー登録者数をドナー登録目標人数で割ったもの
- 4: 提供者数および移植患者数は居住地で、平成5年～平成16年9月までの累計数。海外は除く

皆 皆さまのドナー登録によって、患者さんに生きるチャンスを提供する機会は年々増えています。今年8月

本赤十字社と連携しつつ、ドナー登録がしやすい環境づくりを推し進めることが一層必要だと考えています。いま日本にはドナー登録ができる20～50歳までの人口が約5300万人、1000人に4人はドナー登録をしていることになり、これが1000人に6人になれば、目標ドナー登録者数30万人を達成することができます。私たちは今まで以上に、国民の皆さまへの普及広報活動へ力を注いでまいります。善意の輪を広げていくため、皆さまのご支援を引き続きよろしくお願い致します。

から開始したコーデインネット迅速化の取り組みも効果が始まりました。患者さんの適応条件も拡大され、中高年齢者への移植（ミニ移植）が行われるようになり、移植件数は増加する傾向にあります。

骨髄バンクは、血液難病に苦しむ患者さんの命を救う社会システムとして、今後も、これまで以上の大きな期待がかけられています。

私たちはドナー登録者数が20万人に到達するまでのこの間、移植を受けられなくなった患者さんのことは決して忘れず、すべての患者さんに骨髄提供できる日を目指して、全力で取り組んでまいります。

アメリカはドライブ方式で急伸

右の図は、主な外国・地域のドナー登録者数ですが、特筆すべきなのは、アメリカとドイツの登録者数が群を抜いていることです。

骨髄バンクが成立した背景などが異なるため、日本の骨髄バンクと単純に比較できるものではありませんが、学べる点はかなりあるはずで。

例えば、世界最大規模を誇る全米骨髄バンク（NMDP）では、登録受け付けは献血センターによる全献血者への積極的な呼びかけに加え、「ドライブ方式」を採用入れたことが、急速な登録者増となりました。地域や職域のボランティアが中心になったキャンペーンが全米で年に数千回繰り広げられ、様々なイベントや企業での登録に、医師や看護師ではない採血ボランティアなどが積極的に参加しています。

病気とたたかう誰かのために

あなたができないこと できないこと

「提供のためのドナーの健康基準」

今号では、ドナー登録されている20万人の皆さまに、

「あなたができること、できないこと」を

お考えいただきたく特集しました。

私たちは、患者さんが待ち望んでいる骨髄移植を早期に、

そして確実に実現するため、ドナー側理由による

コーディネート中止事例を可能な限り少なくしたいと願っています。

骨髄バンクでは、提供されるドナーの方々の健康・安全を守るため、

非常に厳しい健康基準を定めています。

そのため、日常生活ではほとんど問題にならない健康状態でも、

提供できないことがあるのです。



クイズ

私は骨髄提供が
できますか？

登録会で聞いてみました 回答集計結果 (表1)

10月24日、横浜駅西口の「そごう」前でドナー登録会が開催され、87人も登録者が
ありました。その時、このような場合は骨髄提供できるか、アンケートで聞いてみました。

問 題	正解率
1. 仕事のストレスから胃薬が手放せません。	75%
2. 偏頭痛がするようになって病院に行って薬をもらっています。病院の先生はがまんできるなら薬は止めてもいいと言われていました。	65%
3. 生まれつき、太れない体質です。体重が40キロありません。健康診断では、異常を言われたことはなく、健康体そのものです。	73%
4. 軽いそばアレルギーです。	60%
5. 去年、出張でイタリアに5ヵ月間いました。	28%
6. 1990年に交換留学生でイギリスの大学に1年間通っていました。	28%
7. 半年前にピアスを開ける器具を買って、友達と一緒に開けました。ピアスの穴は炎症していません。	53%
8. 病院でピアスを開けてから1ヵ月経ちました。炎症していません。	35%
9. いま、心療内科でカウンセリングを受けています。薬は飲んでいません。	38%
10. 以前、うつ病で通院していました。治療が終わったので、1年以上、病院には行っていません。	23%
11. 妊娠3ヵ月です。	98%
12. 去年、骨髄バンクを介して、2回目の骨髄提供をしました。	38%

回答数40 男性:13人 20代-4人 30代-7人 40代-2人 女性:27人 20代-9人 30代-10人 40代-7人 50代-1人

クイズの答えはP6に

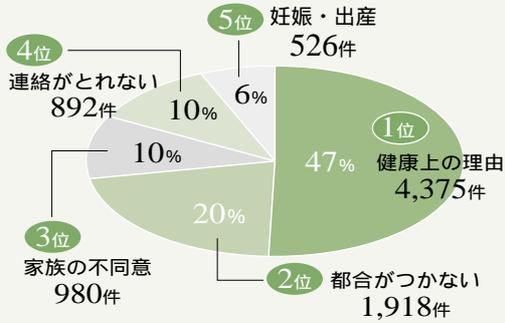


コーディネート中止理由

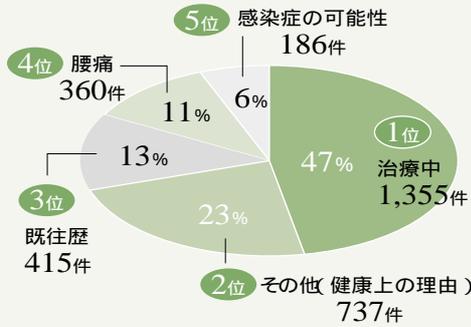
(平成15年度)

ドナー側の理由によるコーディネート中止件数の多くは、初期の適合段階によるものです。

ドナー側の理由上位5位



健康上の理由上位5位 (確認検査前)



ご存じでしたか？

こんなに多い健康上の理由でのコーディネート中止

よりよい適合条件のドナー選択

ドナー登録者に適合通知が届くと、提供に向けて、複数の候補者からより良い適合条件のドナーを選ぶのがコーディネートです。平成15年度では1万5545人が候補者となり、実際の提供者は20分の1に絞られて732人(4.7%)でした。患者さんの病状による中止もありますが、ドナー登録者のご理解によって中止例を少なくすることができます。

ドナー側理由での中止は全体の約6割を占める9384件で、そのうち4375件(47%)が健康上の理由によるものでした。内訳は初期の確認検査前で3257件、確認検査実施から最終同意面談実施までが

1065件、最終同意以降が53件となっています。

実際のケースにみる
中止理由

コーディネート中止になった「健康上の理由」とはどのようなケースだったのでしょうか。

ケース1 退院後も治療継続中

Y・Iさん(29歳・男性)の場合

「今年の10月末に尿管結石で入院したのが理由です。退院後、適合通知がきたので、問診票を返送しました。治療継続中の事実を正直に書きましたら、それが理由でコーディネート終了というお知らせをもらったのです」

ケース2 血圧の基準値を超える

M・Sさん(48歳・男性)の場合

「今年の8月に適合通知が来て、6月に会社で受けた健康診断結果をコピーして送りました。血圧が基準よりも高かったため、1週間ほど自宅で測るよう依頼されたので、その結果を伝えました。また、9月に関連会社の健康診断がありましたから、その結果も送ったところ、やはり基準値を上回る、ということになりました」

ずっと厳しいドナーの健康基準

Y・Iさんのように治療が継続中である場合や服薬中は骨髄提供はしていただけません。治療中とみなされるコーディネート中止例は、健

康上の理由の中で最も多いのです。

M・Sさんは、血圧が高いことは意識していませんでした。健康診断でも、少し高いと指摘はされましたが、通院や服薬の必要はないということでした。つまり、一般的には「健康」の範囲内ではあっても、骨髄提供のための健康基準の中には入っていませんでした。

同じ意味で、低血圧や貧血も通常の生活に支障がない範囲であっても骨髄ドナーにはなれない場合があります。骨髄提供のための健康基準はそれだけに厳密なのです。

「残念でした。自分以外の候補者が何人いたか分かりませんが、患者さんにはせつかくのチャンスなのに、それが奪われてしまったのですから、申し訳ない気持ちもあります」

M・Sさんは言います。コーディネート中止では患者さんも落胆しますが、適合したドナー候補者が不適合とされるのが何度も重なった時のショックは想像に難くありません。

「前に一度適合通知をもらったことがあったのですが、そのときは患者さんの都合で中止になりました。今回、気持ちとしては提供したかったです。もしも俺しかいなかったら、と思いつらかったですね」

そう語るY・Iさんは、最初の適合時と今回とは健康状態が変わってしまったていたのです。このように登録後の時間経過とともに環境や健康状態の変化によるコーディネート終了のケースが増えています。

骨髄ドナーの医学的基準が厳しいのはなぜ？



秋山 秀樹 ドナー安全委員会委員長
東京都立駒込病院 内科医長

骨髄提供のためのドナーの方の健康基準は、医学的見地から「適格性判定基準」として、非常に多項目に渡り詳細に規定されています。それらの基準は患者さんとドナーサイドの双方の観点から大変厳しいものとなっています。患者さんの救命とドナーの方の健康・安全確保は、いわば車の両輪のような要素をはらんでいるのです。

もちろん骨髄移植は患者さんの救命を目的としているのですから、移植される骨髄液は健康なものでなければなりません。患者さんに移行すると考えられる各種感染症などがドナーの方にあった場合、患者さんにとっては致命的ともなりえますので、避けなければなりません。

一方、骨髄採取は本人にとっては全く必要のない医療行為がなされるということですから、採取によってドナーの方の健康に被害が及ぶようなことはあってはならないことです。全身麻酔下での骨髄採取で問題が起きる可能性が少しでもあると疑われる場合は不適格としています。適格性判定基準の大原則として、ドナーの方の安全を最重要と考えれば、基準はおのずから厳格なものになると考えています。

ご存じでしたか？

ドナーの安全を第一に 患者さんへの 安全配慮も

状況や時代に対応して
判定基準も変わります

患者さんへの安全配慮からの基準は
毎年厳しくなっています。

例えば、クイズ7・8「ピアスを開けた」（表1）の問いかけは、医療機関以外でピアスを開けたとき、特に器具を他人と一緒に使ったりした場合は一定期間、骨髄液の提供は「遠慮願っています」。これは、万一にも患者さんへ肝炎ウイルスなどが感染しないよう、予防的措置としての取り扱いです。

クイズ5・6（表1）は最近問題になっているBSE（クロイツフェルト・ヤコブ病）の伝播を未然に防ぐために「ご遠慮願っているものです。但し、こ

本人が異常プリオンを持っているとか将来発病するとかという意味ではなくあくまでもBSEの原因物質の検出が現在の医学レベルでは無理なので予防的措置です。

BSE対策で対象となるのは1980年以降にイギリス、イタリア、スペイン、ドイツなどヨーロッパ地域（10カ国）に通算6カ月以上滞在したことがある方、もしくはブルガリア、チェコ、デンマーク、ルーマニアなどのヨーロッパ諸国（27カ国）に通算5年以上滞在したことがある方です。

さらに、一昨年から米国などが西ナイルウイルスの流行地域になるなど、マリアラを含めて海外での感染症の流行地域が増加しています。そのため海外旅行から帰国して4週間以内は、原則として骨髄提供できない取り扱いをとっています。

このように提供ドナーとしての医学的判定基準は、その時々々の社会情勢を踏まえて変わる可能性があります。

海外の骨髄バンクの
適格性基準は？

諸外国の骨髄バンクも、それぞれにドナー適格性判定基準を設けていますが、米国骨髄バンク（NMDP）のそれなどと比較しても、日本骨髄バンクの基準は厳しいものとなっています。

明らかに無理と考えられるケースはもちろん、「疑わしきも除外する」を基本姿勢においた結果です。骨髄バンクはあくまでもドナーの安全を第一に考えているからです。

ドナーの安全が最優先

骨髄提供における 健康被害について

骨髄提供ではドナーの安全が最優先されますが、過去にはドナーに健康被害が生じた事例があります。いずれの場合も治療により回復し、通常の生活に戻っています。

過去に死亡事例はありません

日本の骨髄バンクを介しての骨髄提供では、死亡事例は発生していません。過去に海外で3件（血縁者間2例、非血縁者間1例）、日本で1件（骨髄バンクを介さない血縁者間）のドナー死亡事例が報告されています。採取病院では最大限の注意を払い万全の態勢で骨髄採取を行います。

健康被害が起きた場合の 補償制度

骨髄提供の際、万一健康被害が起こった場合は最高1億円の補償制度があります。死亡の際には一律1億円、後遺症には程度により300万円～1億円が補償されます。これまで骨髄バンクでは平成5年の第1例実施以来、5489例の骨髄採取を実施してきましたが、このうち55例に入通院保険が適用されています。（平成16年3月末現在）

骨髄バンクでは、骨髄採取の安全性について皆さまに正しい情報を得ていただけるよう、情報公開に努めています。詳しくは骨髄バンクのホームページをご覧ください。
www.jmdp.or.jp

ドナーサポートダイヤル

骨髄バンクの普及啓発と患者さんの支援を目的として活動するNPO法人・全国骨髄バンク推進連絡協議会が、ドナー登録希望者や登録者を対象とした電話相談事業を始めました。

医学的な質問やコーディネート上の内容に関しては骨髄移植推進財団で対応することになりますが、登録希望者やドナー候補者の皆さんの「実際にはどのくらい痛かったの?」「家族が反対しているんだけど...」といった素朴な疑問や心情的な悩みに対して、相談員である骨髄提供経験者が、自らのドナー体験を語り、アドバイスします。

ドナーサポートダイヤル 受付/月~金曜日 10:00~17:00
☎ 0120-892-106

ご存じでしたか?

こんなとき どうしたらいいの?

状況が変わったら
お伝えください

20~50歳までのライフサイクルの中では、登録中に周囲の環境や健康状態が変化することもあるでしょう。

転勤などで住所が変わったら、この「骨髄バンクニュース」に同封の宛名台紙を利用して、ファクスまたは郵送でお送りください。宛先不明では、適合通知は戻ってきてしまいます。健康上の状況が変化したときも連絡をお願いします。

例えば、妊娠した場合、登録は保留できます。慢性疾患など提供ができなくなるような状況になったら、登録の取り消しをご連絡ください。

たとえ登録を取り消されたとしても、あなたが骨髄バンクの深い理解者であることに変わりはないのですから。

コーディネート中止を
減らすために

なんらかの理由で、しばらく骨髄提供を希望しないときは、ドナー登録を保留にすることができます。骨髄データセンターにて、「指定の期間、ドナー登録保留の手続きを行います。この期間中は、患者さんとの適合検査を行いません。期間が経過したら、保留解除となります。また、早期に保留の解除を希望するときは、本紙に同封されている封筒の宛名台紙を利用して行うことができます。

なお、今後も骨髄提供ができる見通しがたたないときは、登録の取り

消しをお願いします。骨髄データセンターへお知らせください。

ドナーの皆さまの「患者さんを救いたい」という気持ちを何よりも大切にしたい。その気持ちを確実に届けるためには、コーディネート期間を短くし、患者さんがベストな状態で移植することが必要です。「あなたができること」を考えてみませんか。

あなたのドナー体験談を 募集しています

ドナー登録しようと思ったきっかけや適合通知を受け取った感想やコーディネートが終了した時の心境、骨髄提供した時の気持ちなど、どんなことでも結構です。あなたのドナー体験をお聞かせください。ドナーズネットや骨髄バンクニュースで紹介させていただきます。

応募方法

PCから
<http://www.donorsnet.jp/voice/>
携帯から
<http://www.donorsnet.jp/>
提供しました! 体験談募集
たくさんのご応募、お待ちしております。

迅速コースが始まりました

骨髄移植推進財団では、今年1月に「100日プロジェクト」を立ち上げました。患者さんの登録から移植までの期間を中央値で100日にすることを目標にしたものです。その具体策として「迅速コース」を設け、8月16日にスタートしました。

この「迅速コース」は、ドナー候補者の意思を尊重しながら患者さんの病状と移植希望時期に即した迅速なコーディネートを進め、骨髄提供することを目的としています。

ドナーの自由意思と安全性確保

平成15年度のドナーコーディネート期間は、中央値で147日となっています。それを短縮することがこのコースの最大の目標となっています。これにより、コーディネート開始から100日前後で病状悪化などの理由により登録を取り消す患者さんを救命しようと考えています。

ドナー候補者への説明は、初期段階から採取日までのスケジュール(目標80日間)を提示し、日程調整が可能かどうかを確認したうえで、ドナーコーディネートの基本理念である自由意思と安全性を確保し、調整が可能なドナーを迅速対象として進めていきます。

スタートから3カ月間に患者登録した国内患者365人のうち85人が迅速コースを希望しており、骨髄採取日が決定した事例では目標と通りの80日を達成しているケースも出始めています。

骨髄移植と輸血



虎の門病院 輸血部長 松崎道男

骨髄バンクに登録されていらっしゃるドナー登録者の皆さん、こんにちは。皆さんが、ドナー登録されていらっしゃるおかげで、白血病をはじめとする血液難病の患者さんは、大変心強く思い、治療に立ち向かう勇気をもらっています。

今回は、骨髄移植と輸血について述べ、献血への協力をお願いしたいと思います。

というのは、今年には台風や地震の被害が甚大なため、例年になく献血が少なく、血液疾患の治療をはじめ手術、救急の現場でも輸血の確保が心配な状況があるからです。

時事通信ニュース(平成16年10月30日)は、「台風や地震など相次ぐ災害の影響で献血者が減少しており、日本赤十字社の輸血用血液が大幅な不足に陥っている。在庫数が必要量の約8割にまで減少しており、日赤は『年末にかけて全国的に血液不足が深刻化する恐れがある』として、全国の血液センターで献血の受付時間を延長するなどして対応している。厚生労働省も都道府県を通じて、献血への協力を呼び掛けた」と報じています。

しかし、どうやら最も影響力のあるテレビなどでの報道が少ないうえ、国民共通の認識にはなっていないようです。これから、冬を迎えますが、冬期間は例年、献血の人数が減りますので、さらに治療に使われる輸血の確保が心配な状態です。

骨髄移植と輸血療法

骨髄移植は、骨髄バンクが登場するまでは、兄弟姉妹間などの血縁者間の同種骨髄移植と自分の骨髄液を移植する自家移植だけでしたが、12年前より骨髄バンクでの非血縁者間骨髄移植が始まり、多くの患者さんの命を救う実績をあげています。最近では、この骨髄移

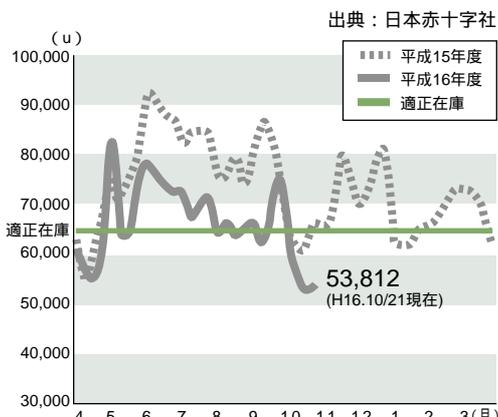
植をはじめ、血縁者間での末梢血幹細胞移植、非血縁者間さい帯血移植と種類が増えておりこれらは造血幹細胞移植と総称されます。

この造血幹細胞移植を必要とする患者さんは、白血病、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患が主ですが、他に重篤な免疫不全疾患や代謝疾患、そして一部の固形がんも適応となるなど、対象疾患も増えています。

移植にいたるまで、この患者さんたちは多くの治療を受けます。例えば、白血病では抗がん剤による化学療法を長期間受けます。

血液疾患は、多くの場合、その病気になる場所が血液の細胞を造る骨髄ですが、その骨髄が障害を受けると正常な血液の細胞である

全国赤血球在庫の推移



赤血球、血小板、白血球が造られなくなり、血液疾患の場合は、病気そのもので骨髄は障害されますが、治療で使われる抗がん剤でも骨髄は著しく障害されるため、治療しない限り、骨髄は障害され続け、血液の細胞は常に不足します。その不足した血液細胞を補充するのが輸血です。

この輸血という治療法がなければ、血液疾患の患者さんは生命を維持できませんし、治療や造血幹細胞移植もできないのです。

したがって、輸血療法は血液疾患の患者さんにとって生命線であり、それをささえる善意の献血者がいらっしやるなければ生命の維持、治療、移植はできないのです。

輸血の種類と骨髄移植

輸血といっても赤血球輸血、血小板輸血、新鮮凍結血漿輸血と種類はいろいろあります。皆さんが、最もなじみがあるのが赤血球輸血ですが、これは通常の400ml献血で造られます。

また、血液中には血小板という細胞があり、出血を止める主役ですが、この血小板がないといつまでも出血は止まらないわけです。健康な人では、抜歯をしてもある程度したら出血は止まります。ところが、血小板のない血液の病気の方は、血小板輸血をしない限りこの出血がいつまでも止まらないのです。脳出血などでは死に至る可能性もあります。移植を受ける方も受けない方も血液疾患の患者さんの大部分は血小板輸血を必要としています。

ちなみに、骨髄移植を受けた患者さんは、移植後、自分で血液を造り出せるようになるまでの間、通常3日おきに血小板輸血が7

10回ほど行われます。

最近、造血幹細胞移植の数が急激に増加し、この血小板輸血の必要性もつなぎのほりに増加しています。年間の造血幹細胞移植件数は、3000例にもなっていると推定されます。

なお、血小板輸血用の血液は400ml献血ではなく、約1時間と少し時間がかかる成分献血で造られていますので、全血献血だけでなく成分献血への協力が必要とされています。

「世界の中心で、愛をさけぶ」という映画が今年大ヒットしましたが、私も観ました。昭和62年当時の高校生の恋愛物語の追憶シーンでした。主人公のガールフレンドが白血病で最期を迎える場面だったと思いますが、空港で主人公が「助けてください」と誰に向かっていたということもなく、全ての人に訴えていた姿が脳裏に焼きついていきます。

この叫びは、骨髄バンクに登録している患者さんやそのご家族の叫びでもあります。

その叫びに対して、助けに駆けつけている方が、骨髄バンクにドナー登録されていらっしゃる皆さんで、私が最も尊敬している方々です。骨髄移植という治療方法は、ドナーの方がいなければ、全くできない治療です。

是非、骨髄移植を必要とする患者さんをドナーとなって救ってあげてください。

献血のお願い

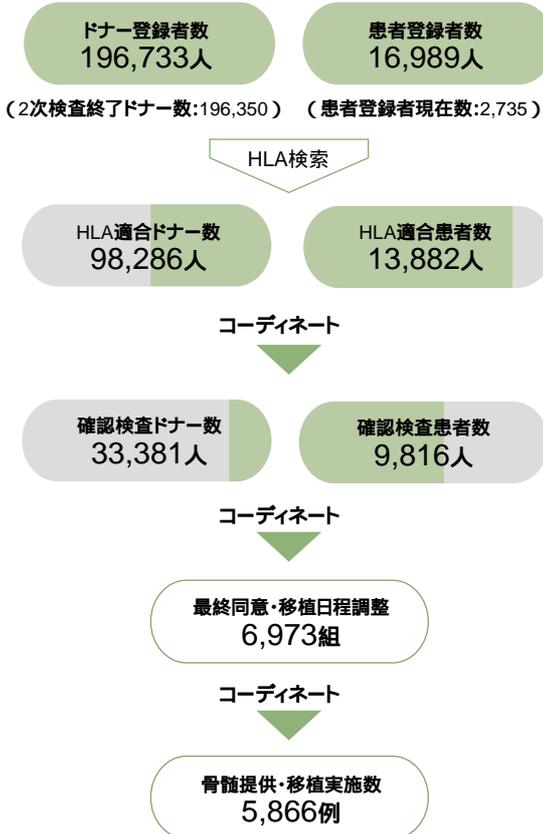
骨髄提供できるチャンスは、一生に一度か二度あるだけで、どんなに提供を望んでもそのチャンスが巡ってこない方々が大半です。しかし、日常的に血液疾患の患者さんの命綱といえる輸血用血液を400ml献血、成分献血という形で患者さんにプレゼントしていただければ、より多くの患者さんが助かります。是非ともご協力をお願いします。命のプレゼント、献血にご協力ください。

日本骨髄バンクの現状

平成15年8月1日に日本骨髄バンクを介した移植例が5000例を超え、その後も年間700例ペースで増加しており、16年9月までには5866例に達しています。ご提供いただいたドナーの方々をはじめ、骨髄バンク事業にご支援いただいた皆さまに、心から感謝申し上げます。今号では、患者・ドナーのコーディネートの状況、移植患者の状況を掲載しました。その他、各種統計につきましては、ホームページで公開しています。
http://www.jmdp.or.jp/about_us/genkyou/index.html

患者・骨髄提供者(ドナー)のコーディネート状況

(平成16年9月末現在、平成4年からの累計数)



患者のHLA適合率は82%です。前回の結果(平成15年3月末)と同等です。適合患者のうち約70%が確認検査に進んでいます。骨髄提供をしたドナーさんは、ドナー登録者の約3%、移植を受けた患者さんは、患者登録者の約34%となっています。

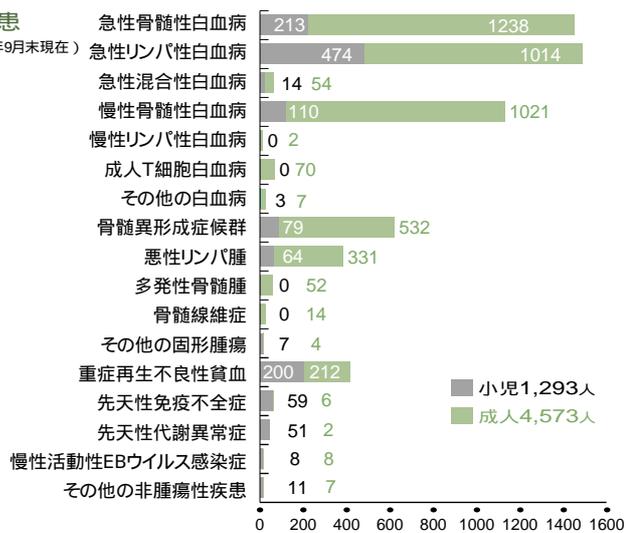
非血縁者間骨髄移植の状況

移植例数の推移



疾患

(平成16年9月末現在)



ドナー登録時での家族同意の見直しについて

国(厚生労働省)の審議会である「第24回造血幹細胞移植委員会」が10月29日に開催され、骨髄ドナー登録者数(ドナープール)拡大のために、ドナー登録要件及び運用の見直し、地域間格差の解消及び取り組みの強化などが検討されました。

その結果、ドナー登録要件としては「家族同意を得ることは必要としない」方向となりました。今後、その実施時期は、国において行政的手続きが行われ決定されます。

また、地域間格差の解消のため「各都道府県ごとに関係者による連絡協議会の設置が必要であり、各地域の実情に合わせた取り組みの強化を要請することとされました。

なお、この造血幹細胞移植委員会においては、ドナープール拡大の観点に立ち、「ドナー登録年齢、提供年齢の拡大、ドナー登録手続き簡略化」などについても、慎重に検討が行われています。

当財団としては、これまでどおりドナー候補者の方々に「骨髄提供の際には、家族の同意を得ることが必要なこと」をコーディネート段階で必ず確認しています。今後とも、ドナー登録説明パンフレット、骨髄バンクニュースやホームページなどで、ドナー登録者の皆さまへ十分な情報を提供してまいります。

ドナー登録要件などの変更の実施時期は未定です。決定がございましたら公表されます。



10月は骨髄バンク推進月間

公共広告機構の新ポスターとも連動
災害乗り越え、登録会は215回開催

今年に入り毎月連続2000人を超すドナー登録者がありますが、骨髄バンク推進月間の10月には、その月平均と比べて2割以上、また、過去の月間でも3番目に多い2949人の登録者数となりました。献血ルームや保健所での受け付け以外のドナー登録会が215回開催され、推進月間の約6割が登録会での登録者でした。

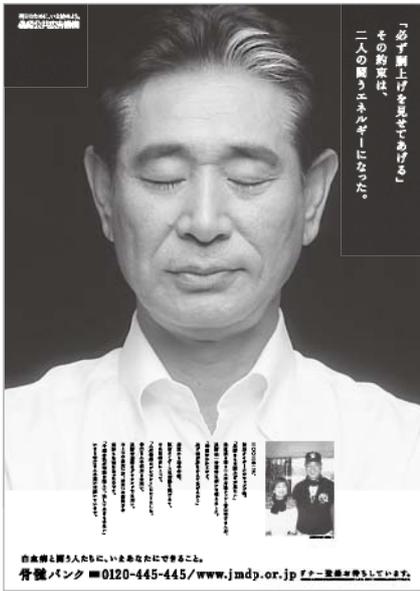
予定されていた登録会が台風や地震のために中止となるケースもあった中、地域緊急雇用創出基金を活用した推進員配置の成果が着実に反映されたところもあり、登録会の開催数が年度始めに比べ2倍以上になったことや、登録者数の多い登録会が開催されたことなどで好結果が得られました。

推進月間に合わせ公共広告機構のキャンペーンに連動したポスターを、各行政、郵政公社などへ配布したほか、

今年は首都圏の私鉄 地下鉄 JR東日本・西日本、西日本鉄道などの交通広告媒体で多数掲出していただきました。

さらに例年同様、行政広報紙での啓発記事掲載や地域マスコミの骨髄バンク特集記事の掲載、学園祭、地域イベントでの広報活動に参加した支援ボランティアの皆様の力なども大きな成果につながりました。

また、インターネット広告推進協議会（JIAA）が、骨髄バンクのコミニティサイト「ドナーズネット」を支援してくださることにになりました。同協議会の働きかけによって、加盟会員各社の媒体がドナーズネットのバナー広告や記事を掲載するという新たな試みが始まっています。10月から本格的な支援を受けており、インターネット利用者への積極的な情報提供につながっています。



公共広告機構のキャンペーンに連動したポスター「星野仙一さんと白血病と闘う谷口明子さん」



全国大会に400人参加

石原夫妻が壮絶な闘病をこもこもに
患者・ドナーコーディネートをスライドで再現

10月31日、慶應義塾大学三田キャンパスにて、全国の関係者約400人が参加して開かれましたが、「もうすぐ20万人、まもなく移植6000例」のサブタイトルが示すとおり、平成3年（1991）12月に財団が発足してから13年を迎える中、ドナー登録者数の20万人到達が目前の大会となりました。

第1部の式典に続き、第2部の記念イベントでは、「血液型が変わっちゃった！」（マキノ出版）の著者、石原靖之さんと、苦しい治療の大きな支えとなった奥様への特別インタビューが行われ、壮絶な闘病の様子がご夫妻の口から語られました。

石原さんは平成7年末に急性骨髄性白血病となり、治療を受けたものの13

年に再発、翌年に骨髄バンクを介して骨髄移植を受けました。A型だった血液型が、ドナー由来のO型になったことなどの闘病生活を本にしたことなどを話していただきました。

このあと、患者さん・ドナーさん双方のコーディネイト状況を、スライドなどを使って解説する「コーディネート再現」が行われました。スライドショーとトークによって、骨髄バンクのコーディネイトを紹介していくという今までにない手法をとりました。

再現シーンの合間には、フロアの参加者にもマイクが向けられ、活発な意見交換がありました。最後に参加者全員で記念アピールを採択し、閉幕しました。



写真上 コーディネイト再現
写真下 記念アピール採択



次女の白血病を機に
骨髄バンク設立運動
自らもドナー体験

藤岡八重子さんに 毎日社会福祉顕彰

毎日社会福祉顕彰（毎日新聞社会事業団主催）は毎年、福祉の向上に貢献した個人、団体を顕彰し、第34回（平成16年度）は推薦された35件の個人、団体の中から3件に贈られました。

今回受表彰された藤岡八重子さんは、昭和62年（1987）に次女・貴子さんの急性リンパ性白血病再発をきっかけに骨髄バンクの設立を求める運動を開始しました。藤岡さんは、治癒の望みをかけて貴子さんに骨髄移植を希望したものの家族にHLA適合者がいなかったため移植を受けることができなかったのです。そんなとき、他人からでもHLAが適合すれば移植が受けられることを知り、血液センターや行政への陳情など骨髄バンク設立運動に邁進しました。

しかし、平成2年に貴子さんは「自分以外の人も助けてほしい」と言い残して13歳の短い生涯を閉じました。藤岡さんは貴子さんの願いを胸に日本骨髄バンク設立後も地域におけるドナー登録推進活動を担うボランティア組織として、関西骨髄バンク推進協会を設立、今も専務理事として活躍されています。また、自らもドナーとなり骨髄を提供するなど献身的に活動されています。近畿各府県のボランティア組織の立ち上げ、ドナー登録者を大幅に増やすキャンペーンなども成功に導き、日本国内でドナーを得られない人のために、アジア太平洋地域の骨髄バンク提携の実現などにも貢献しました。ドナー登録者数が、目標の30万人には届いていないことから「まだ道半ば。皆さまのご協力を」と訴えています。



「より多い細胞を確保するための採取手技」などについて、情報が交換されました。

さい帯血の公開数が9月に2万個に達し、さい帯血移植累計数も1942（11月4日に2000）例になったことや、移植成績では15歳以下の子どものさい帯血移植は、病状によっては骨髄移植に近い効果が得られることも報告されました。加藤俊一・東海大教授（細胞移植学）は、骨髄移植は準備に数カ月かかるが、さい帯血移植はすぐにでもできる。状況に応じて使い分けるべきだ」と説明しました。

シンポジウム、拡大する高齢者移植では、さい帯血のミニ移植について報告され、実際に移植を受けて元気づけた50歳代と60歳代の元患者さんも登場しました。また、公募されていたシボルキャラクター（やなせたかし氏デザイン）の愛称は「きずなちゃん」に決まりました。



さい帯血バンクネットワーク5周年大会

採取病院のスタッフが情報交換
ミニ移植を受けた2人の元患者さんも登壇



制定し、さまざまなボランティア活動に取り組んでいます。ドナー登録会もその一環として行われたもので、今後は全国

同社には昨年引き続き、今年も有志社員が積立している「ゆにぞん募金」から、財団の患者支援基金へ多額のご寄付をいただいています。

あいおい損害保険株式会社（本社・東京都渋谷区）が3日間にわたり、本社と都内の営業本部2カ所ですべて献血とドナー登録会を開催。計56人の方の登録がありました。

の支社にも協力を呼びかけて、規模を拡大していきたくですね。やればい、というものではなく、きちんと成果を出したいですから。また、今回の取り組みで、まだ「骨髄提供は怖い」というイメージを持っている社員が少なくないことがわかりました。まずはそうした誤解を払拭するところからはじめていきたい」と語る伊東義雄広報部長は、奥さまが骨髄バンクで骨髄提供を体験していることもあって、ドナー登録について、正しく知ってほしいと話されていました。



企業の社会貢献 10月は「あいおいの月」

あいおい損保でドナー登録会、56名の登録

骨髄バンク事業が開始されてもうすぐ13年。この間、世の中は大きく変わりましたが、「いのちを救う」ドナー登録の意義がゆらぐことはありません。でも、骨髄バンクの認知度が向上するにつれ、皆さんのドナー登録に対する意識には変化が見られるのかもしれない。そう考え、皆さんにドナー登録をしたきっかけを伺うアンケートを企画しました。今後の骨髄バンク普及啓発活動のため、ご協力をお願いします。どうか「ドナー登録しよう」と心が動いた瞬間を思い返してみてください。ささいなことでも、皆さんの想いが、これからドナー登録を増やしていく大きなヒントになります。

(なんでも探検隊長：アヤト)

ご協力いただいた方の中から抽選で50組100名様を映画『火火』の試写会へご招待！

日時 平成17年1月11日(火)18:00開場18:30開映
 場所 ヤマハホール(東京都中央区銀座7丁目9-14)

試写会は東京のみの開催となります。ご了承ください。

アンケートフォーム：<http://www.donorsnet.jp/oppo/>
 集計結果は、サイトとメルマガで報告します。

締め切り：平成16年12月29日(水) 当選は招待状の発送をもってかえさせていただきます。

映画「火火」

平成17年
お正月第2弾
ロードショー



キャスト

田中裕子 窪塚俊介
 黒沢あすか 池脇千鶴
 遠山景織子 岸部一徳
 石田えり

脚本・監督：高橋伴明

原作：「母さん子守歌うたって」

(那須田稔/岸川悦子著 ひくまの出版)

後援：骨髄移植推進財団

芸術文化振興基金助成事業

配給：ゼアリズエンタープライズ

映画「火火」公式ホームページ <http://www.hibi.cn/>

ドナーズネットも「火火」を応援します。

映画情報やインタビューなども掲載します。お楽しみに！

【donorsnet news】

骨髄バンクの最新情報をメルマガでお届け！お申し込みは

<http://www.donorsnet.jp/mail/>

募金のお礼とお願い



南野陽子さんとチェン・レイピンさんのデュオ=11月22日、紀尾井ホールでのドナー登録20万人記念チャリティーコンサート

ドナー登録者30万人の実現のためには、パンフレットやポスターの制作、ドナー登録会開催などを継続していかなければなりません。引き続きお力をお貸しください。

貴重な募金でできること

たとえば



¥ 3,000



パンフレット120部



¥ 10,000



ポスター150枚

皆さまの善意をお寄せください

1 郵便振替



郵便振替用紙で、最寄りの郵便局からお振込みをお願いします(手数料は当財団負担となります)。

2 銀行振込



☎0120-377-465までお電話ください。みずほ銀行本支店間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

3 クレジットカード募金



お電話で

ご使用になるカードをお手元にご用意のうえ、☎0120-377-465までお名前・ご住所・電話番号・カード会社・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。



インターネットから

http://www.jmdp.or.jp/reg/help_us/how_to.html
 NTTコミュニケーションズの電子決済サービス「Livyu(リブアイ)」を利用したインターネットの決済サービスです。お申し込みいただいた金額をご利用のカード会社の規約に従って、通常のカード利用と同様に口座から振り替えさせていただきます。



骨髄バンク提携クレジットカードのご案内

クレジットカードによるお支払いの0.5%が骨髄バンクに寄付される骨髄バンクサポーターカード。寄付金なしの一般会員と、年会費として毎年3,000円を寄付するサポーター会員、毎年1万円を寄付する特別会員があります。骨髄バンクカードには、この3種類のNICOSカードのほか、各VISAつきカードがあります。

入会申込書を☎0120-377-465までご請求ください。

編集後記

コーディネーターが中止になるケースは意外と多いものです。患者さんの中には「ドナーさんに断られた」と受け止める方もいると聞いていますが、実際は健康上の理由で中止になっているケースが多いことが、おわかりいただけたと思います。ドナー登録者の皆さまの善意は本当にありがたいのですが、コーディネーターが

スムーズに進むためにも、さらにはご本人のためにも「健康第一」を心がけてくだされば幸いです。「迅速コース」にご協力をお願いします。また、今号では輸血の重要性について、虎の門病院・松崎道男輸血部長に寄稿していただきました。設立当初から「献血」は骨髄バンクと密接な関係にあることを改めて痛感します。25号作成にあたり、ご協力いただいたすべての方に感謝をこめて。

お問い合わせ・資料請求は

日本骨髄バンク

☎0120-445-445
<http://www.jmdp.or.jp/>